

災害発生時における“LPガス事業者の役割”をご紹介します！！

『自然災害に備える！！ LPガスで行える『命をつなぐ防災対策』』

災害後の避難所に設置されているLPガス関連設備が人の生活を支えます

LPガスを平時から使用することは、常に備蓄をしていることにもなります。この観点から、災害時に『公共施設や避難所』に指定されている施設などのLPガス設備の常設は重要です。LPガス災害バルクを備えていれば、ガス機器を利用することにより被災された方々を支え続けられます。

LPガス災害バルク(1トン型)のガス残量約半分で約4日間使用できる内容

| 燃焼機器 | 1日あたりの使用時間(h) | 台数 | 備考 |
|---------------|---------------|----|-------------------------|
| ガスコンロ(4重) | 3 | 2台 | 直径54cm以内の寸胴で2台同時に煮炊きが可能 |
| ガス炊飯器(5.5升炊き) | 1 | 2台 | 約70人分の米飯が可能※1 |
| ガスストーブ | 24 | 5台 | 約170㎡相当を暖房可能※2 |
| ガス発電機 | 24 | 1台 | 定格出力0.85kVA |
| ガス給湯器(16号・給湯) | 3 | 1台 | シャワー使用 |
| ガス給湯器(16号・風呂) | 0.17 | 1台 | 風呂給湯160ℓ |

※1 一人当たりの1日分の米消費量を3合(1合×3回)、炊飯回数を2回とした場合の試算値
 ※2 コンクリート造屋内使用時



LPガス災害バルク1トン型で内容量50%(500kg)の状態

- 電気が使えない!!
- 寒さや暑さが厳しい時は...
- お風呂やシャワーを使いたい!!

